

1 事業内容

団体名	一般社団法人 エシカルプラス
事業名	災害対策トレーニング in 釧路 ～2024 能登半島地震の教訓を得て～
課題テーマ	安心して暮らせる都市・地域を担う人材育成
事業提案の背景	釧路市においては、千島海溝巨大地震及び太平洋海水温上昇による豪雨等災害のリスクが高い中、「能登半島地震」の教訓から得た先手の対策と住民自ら考え、意思決定し行動できるスキルと基礎知識の習得が重要であることから、本事業を提案した。
事業目的	2023 年度実施した同事業の具現化（課題解決の実践） 複合的被害に対する自助・共助の対策強化
事業内容	【災害対策トレーニングワークショップの開催】 1. 住民主体の運営に必要な情報トリアージ法の習得と情報伝達アイテムの作成、演習。 2. 女性視点の避難所運営演習 能登半島地震の現地調査をもとに、釧路市で想定される複合的災害への対処法を女性視点で実践する方法を学ぶ。 3. インクルーシブな対策@災害弱者・要支援者など 当事者をファシリテーターとし、災害時におけるリスクコミュニケーションを行い、マニュアル等の検討と周囲への理解促進法をディスカッションする。 【人材育成プログラム】 1. 小・中学生、保護者等を対象に、体験学習等を開催 例）災害対策士を体験しよう！WS 災害対策を学ぼう！WS など * 新型コロナウイルス等感染症拡大防止対策 体調アセスメント、消毒、換気等の実施

事業展開	インクルーシブ・要配慮者への避難所における対応と情報伝達オペレーションを実践。災害対策基礎概論の講義と五ノ井里奈氏の講演後に、演習を実施。 10代から70代までの（女性8割）多様な参加者（30名）が集まり、市民による災害対策の実働性が向上した。 小学生4年・6年生を対象に、キャリア教育と防災教育をコラボして実施。自ら意思決定し行動する大切さを実感してもらい、職業にも関心を向けてもらうプログラムを展開した。
成果目標の達成状況	1. 災害対応力の向上を目的に事業を行った結果、参加者（市民）自ら意思決定し行動できる状況に、当初は戸惑いも見られたが実行できるレベルとなった。 2・3 女性を主体とした避難所運営をトレーニングし、ガバナンスや人のオペレーション、要配慮者の対応を協議しながら実施でき、実行力の向上となった。 4. 防災教育とキャリア教育のコラボレーションという、初めての取組みに、新鮮さと重要性、生徒の自主性、判断力、協調性が養われ今後の防災教育に反映できる評価を多方面から得られた。
波及効果の達成状況	知名度の高い五ノ井氏にオファーしたことで、各新聞メディア他、NHKの全道版ニュースや密着取材に取り上げられ 本事業を釧路市内にとどまらず、道内エリアに広く周知できた。 また、YouTube 他 SNS での動画配信をした事で、若い世代へもアプローチができた。
実施体制	法人メンバー、中央小学校、地域学校協働活動推進員、JA 釧路女性部、プリンスホテル、五ノ井里奈氏等、協力支援体制を組み実施した。
連携した市担当課	無 ・ 〇 （ 総務 部 防災危機管理 課・室）
連携した市担当課が果たした役割（※有の場合）	助言、消防出向職員によるレスキュー実践指導、防災知識の提供を受け、行政と市民の協働防災・災害対応意識が向上した。

2 支出決算書と支出内訳 （収入）

費目	決算額（円）	内訳
輝くまちづくり交付金	300, 000 円	
自己資金	50, 000 円	
合 計	350, 000 円	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
謝礼	30, 000 円	講師 2 名
消耗品費	5, 000 円	手指消毒・包帯・ネック固定材
使用料・賃借料	70, 000 円	会場費・使用料 (レンタル込)
光熱水費	5, 000 円	電気・暖房使用料
役務費	40, 000 円	広告費 (SNS 含)
旅費	50, 000 円	講師旅費 (宿泊費)
印刷製本費	100, 000 円	ポスター・フライヤー・テキスト等
小 計	300, 000 円	
対象外経費		
飲食費	20, 000 円	講師・スタッフ分
人件費	30, 000 円	サポートスタッフ分 (会場設営等)
小 計	50, 000 円	
合 計	350, 000 円	